

”人とびわ湖に優しい
地産地消“がモットー

自然豊かな多賀町・木曽でこだわりの農業を



たがちょうきそ
多賀町木曽
にしざわとしお
西澤利夫さん(71)

主要作物の作付面積

作物名	作付面積
水稻	140a
野菜	66a
果樹	ハウス1棟

(令和2年度)

夫婦で複合経営を実践
サラリーマンを辞めた後に農業大学へ通い、本格的に農業を始めて12年目になります。夫婦で水稻や、ブロッコリー・キャベツ・ナバナなどの野菜、ビニールハウスで柿のポット栽培もしています。様々な品目を作付けすることで、年間を通じて収益を確保し安定した経営を行えるよう取り組んでいます。農業の魅力は、季節の移ろいを楽しみながら旬の作物を育てる“ものづくり”にあると思います。育てるときのワクワク感と、できた時の達成感が「農業をやっていてよかった」と思わせてくれます。

農業を始めた当初から栽培し、現在も農業経営の柱となっているのがトマトです。環境負荷の少ない丸太ボイラーと雪が多く降る木曽地域の気候を利用し、ビニールハウスで甘酸っぱい真っ赤なトマトを栽培しています。私自身がトマトを好きなのであります。あまり知られていないかもしまりあり、やはり完熟収穫したもののは格別で、消費者の方々から好評をいただくのがうれしいです。私が育てたトマトはJAを通じて学校所にも出荷しています。

「環境こだわり農業」
「地域で実践する
環境こだわり農業」
「環境こだわり農業」にも水稻と野菜の一部で取り組み、“人とびわ湖に優しい地産地消”をモットーにしています。あまり知られていないかもしまりませんが、木曽地域では全生産者がすべての米を「環境こだわり農業」で栽培しています。自然豊かな地域性が理由の一つに挙げられるのかもしれません。これからも引き続いで栽培していきます。自然環境に配慮した栽培を続け、目標は夫婦で生涯現役農業です!!

【環境こだわり農業】：化学合成農薬や化学肥料の使用量を慣行の5割以下に削減し、濁水の流出防止などびわ湖をはじめとする自然環境に配慮した栽培法



秋 培中のワクワク感と、収穫時の達成感が農業
木曽の大きな魅力です。



西澤さんは半促成と抑制栽培で2シーズンに分けてトマトを栽培されます。頭に巻いた手ぬぐいには、こだわりの真っ赤なトマトのワンポイント。
西澤さんのトマトは、やさいの里・やさいの里二番館などで、10～2月・6～7月にお買い求めいただけます。

Search! 今月の表紙

11月号の表紙は、美浜館名物『かぶらのはさ掛け』です。

収穫されたカブなどの野菜を「はさ」に掛け、天日と晚秋の冷たい風に当てることで甘みを凝縮させておいしい漬物に仕上げます。冬の琵琶湖岸の風物詩として知られていたが、近年この光景は見られなくなりました。そこで美浜館名物として『かぶらのはさ掛け』をのこそうと、2年前から取り組みを行っています。

11月から12月にかけて、美浜館敷地内にて予定していますのでぜひご覧ください。



Contents

- 4 特集
安全とおいしさにこだわり！
多賀にんじん
- 6 今日からはじめる 家庭菜園
- 8 ピックアップ！ 地域のEすとニュース
- 10 あつまれ 地域のEひと
- 12 スタッフルーム
- 14 おいしくうれしく 魔法のレシピ